

令和2・3年度 中野区教育委員会「学校教育向上事業」研究指定校
研究発表会

【研究主題】

学校2020レガシー

地域の教育力とつながるボランティアマインドの醸成

～【FOR 2050】未来に生きる力を育むための持続可能な取組を検証する～

【地域交流】



【障害者理解】



【地域防災】



【オリンピック・パラリンピック】



FOR2050(2050年に向けて)

校長 竹之内 勝

中学校学習指導要領の前文にあるとおり、これからの学校には「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」が求められています。

この実現のために本校では、生徒たちが世界を支える中心となっている約30年後の2050年に向けて、「人間力(人間にしかできない力)」を身に付ける様々な活動に取り組んでいます。ボランティアマインドが醸成されれば、自己有用感(社会や人の役に立っている実感)に裏付けられた自己肯定感(自分にはよいところがある感触)が生まれ、「2050年への持続可能な社会や地域における創り手の基礎が形成できる」と考えています。具体的な実践を積み重ねながら、生徒一人ひとりの「人間力」向上に努めることこそが、私たちの使命です。その一端をここに発表させていただきます。

研究の推進に際しまして、東京都教育委員会、中野区教育委員会をはじめとする、ご指導・ご協力いただきました全ての方々に、厚く感謝申し上げます。

令和3年11月



中野区立南中野中学校



目指す生徒像

- 自他の生命を尊重し、健康な生活を送ろうとする生徒
- 人権尊重の精神を理解し、社会の発展に寄与しようとする生徒**
- 幅広い教養を身に付け、生涯学び続けようとする生徒

南中野中学校 教育目標

人権尊重の精神を基調とし、知性と感性に富み、心身ともに健全で、人間性豊かな生徒の育成を目指す。
自ら学び、考え、実践できる人になろう(賢く)
思いやりのある、心豊かな人になろう(優しく)
心身ともに、たくましい人になろう(逞しく)

南中生の現状

- 自己有用感に裏付けられた自己肯定感の醸成に関連して<学校評価生徒アンケート>「目標をもって学校生活を送っている」
- R1 **1年 83%** (R2 2年生)
- R2 **2年 69%** **1年 73%**

【研究主題】

学校 2020 レガシー
地域の教育力とつながるボランティアマインドの醸成
～【FOR 2050】未来に生きる力を育むための持続可能な取組を検証する～

主題設定理由・背景

- これまで「地域の学校」として企画し、取り組んできた諸活動を意義あるものとして継承し、継続していく。
- 制約ある教育活動の中でも取組可能な活動を企画・実施し、生徒の目標設定の一つとしてのボランティアマインドの醸成、および、社会の発展に寄与する未来の地域の担い手を育成する取組について検証する。

<研究の基本ベース>
平成 25・26 年度
学校教育向上事業
「道徳教育における南中スタンダードの定着と教育活動における話し合い活動の充実」

R2 南中野中の「レガシー」確認

令和 2 年度
道徳授業地区公開講座※
「ボランティアマインドを主題とする教材による道徳授業」
※緊急事態宣言発出のため公開せず

<南中ボランティア>

- ・地域祭り
- ・地区運動会
- ・児童館イベント
- ・地域小学校との交流
- ・地域清掃

地域交流

<中野特別支援学校との交流>

- ・運動会予行見学
- ・文化発表会リハーサル見学
- ・卒業前交流行事
- <心のバリアフリーワークショップ>

障害者理解

地域防災

- <全校防災訓練>
- ・避難所開設訓練
- ・炊出し訓練
- ・初期消火訓練
- ・煙体験

オリンピック・パラリンピック

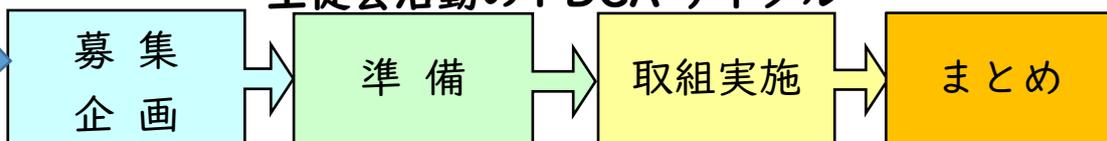
- <義肢装具体験講話>
- <アスリート講演会>
- ・オリンピック体験授業
- ・あすチャレ!スクール
- ・パラリンピアン講演会

R3 コロナ禍での取組実施・検証

- <地域教育力の活用>
- ・保育園・幼稚園
 - ・特別支援学校
 - ・近隣小学校
 - ・区民活動センター
 - ・各地区町会
 - ・児童館・図書館
 - ・職場体験協力事業所
 - ・卒業生・PTA関係
 - ・区防災課

- <取組実施の工夫>
- 通常実施
 - 分割実施
 - ・全校→学年別
 - 動画・画像等によるメッセージ交流
 - ICT(オンライン・リモート)の活用

生徒会活動の PDCA サイクル



地域の教育力とつながる「ボランティアマインド」の醸成

【FOR2050】思いやりあふれる未来へ…地域貢献を目指す学校作り

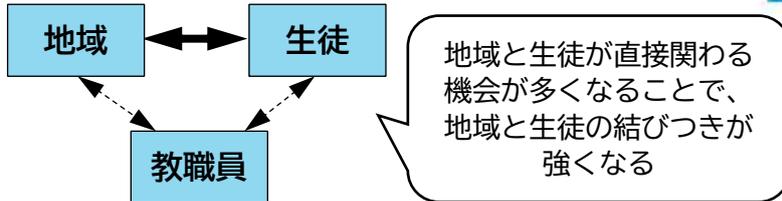
地域交流

1. 「南中ボランティア」の構造

地域 学校への依頼→生徒への事前説明と当日の活動の対応
教職員 希望生徒の調整・情報の伝達中心



地域の方が来校しての説明会



地域と生徒が直接関わる機会が多くなることで、地域と生徒の結びつきが強くなる

2. 「南中ボランティア」の流れ

	地域団体	学校(担当教職員)	希望生徒
前年度末	依頼用紙受取←	←依頼用紙配布	
新年度当初	依頼用紙提出→	→依頼用紙受付 年間スケジュール作成→	年間スケジュール周知
実施1ヶ月前	申込用紙作成・持参→	←申込用紙配布・回収→	←申込用紙記入・提出
実施1週間前(昼休み)	校内事前説明会開催→	ボランティアTシャツ貸出→	←校内事前説明会参加
実施当日	生徒への指示・指導→	(必要があれば同行)	←ボランティア参加
終了後	(感謝状贈呈など→)	全校集会等での表彰	←ボランティアTシャツ返却

3. 平成31年(令和元年)度の「南中ボランティア」実績[順不同]

16のボランティア活動に約200名が参加

栄町公園桜まつり	南中野児童館 棒パン・シチュー会	みなみの小運動会	中野区推進委員会 “社会を明るくする運動”
栄町公園盆踊り	南台小「寺子屋南台」 (学習補助ボランティア)	八島自治会 やしま縁日・ラジオ体操	多田神社宵宮祭
南台小運動会	南中野地区まつり	南中野地区大運動会	南中野児童館 デュオ・フェスティバル
初期消火機器操法大会	みなみの小展覧会	みなみ児童館かっぱまつり	キッズプラザ新山冬まつり



4. コロナ禍での「南中ボランティア」実績

【令和2・3年度】南中野地区まつり 吹奏楽部が演奏で出演

【令和3年度】<夏休み>南台小「寺子屋南台」[学習補助ボランティア]を実施



説明会はオンラインで実施



一対一で補助をしました

【南台小「寺子屋南台」参加生徒の感想】
 ・教えることはとても楽しかったです。
 ・良い経験になったので、今後も機会があれば参加したいです。

【令和3年度】<10月>南台小学校運動会ボランティアを実施

5. 「ボランティアマインドの醸成(地域交流)」をテーマに主題を設定し、道徳科の授業を実施

	1学年	2学年	3学年
主な活動	・小学校で見た南中の活動 ・「南中ボランティア」活動	・「南中ボランティア」活動	・「南中ボランティア」活動 ・これからの社会貢献
特別の教科 道徳	「楽寿号に乗って」	「今度は私の番だ」	「社会からの無言の賞賛を感じる感性」

地域防災

1. 全校防災訓練の流れ(平成28年度から実施)

<災害時に避難所となる本校の特色を生かした生徒主体の防災訓練>

ボランティアマインドの醸成＝有事の際の「共助」の役割を学ぶ

◎昼間の大人不在の中での支援者としての中学生の育成

◎地域が育む「共助」 区役所・消防署・地域消防団・地域各町会の協力



当日の動き

	第1学年	第2学年	第3学年	地域団体
1校時	通常授業(各教室)	訓練準備、 指導・誘導打合せ	通常授業(各教室)	避難所受付開設訓練 通信機器設置訓練
2校時	班別巡回による各訓練・ 体験実施	各訓練場所へ誘導 訓練指導【ローテーション】	通常授業(各教室)	パーテーション設置訓練 仮設トイレ設置訓練 初期消火訓練
3校時	防災ビデオ鑑賞 非常食配布	防災ビデオ鑑賞 非常食配布	学活 非常食配布 防災ビデオ鑑賞	起震車・煙体験 炊出し訓練



コロナ禍における訓練

令和2年度:これまで実施していた訓練のうち、仮設トイレ設営・初期消火・炊出し用バーナー点火・避難所パーテーション設営・起震車体験を実施(避難所受付・通信機器設営・炊出し訓練と煙体験を取り止め)

令和3年度:前年度の訓練に煙体験を加え、土曜授業日に実施

防災訓練事後アンケート集計結果

① 今回の訓練の目的の1つは、「周りの状況に応じて、自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度を育成する。」です。その目的を達成することができましたか。(1・2年生徒)



② 多くの大人が仕事で地域にいない日中に大震災などが発生した際、中学生が支援者として活動する場面が予想されます。今回の訓練を通してそのような行動をとるための意識を高めることができましたか。(1・2年生徒)



③ 多くの大人が仕事で地域にいない日中に大震災などが発生した際、中学生が支援者として活動する場面が予想されます。今回の訓練を通してそのような行動をとるための意識を生徒たちは高めることができましたでしょうか。(訓練に参加された地域の方)



2.「ボランティアマインドの醸成(地域防災)」をテーマに主題を設定し、道徳科の授業を実施

	1学年	2学年	3学年
主な活動	・「南中ボランティア」活動 ・全校防災訓練	・「南中ボランティア」活動 ・全校防災訓練	・「南中ボランティア」活動 ・これからの社会貢献
特別の教科道徳	「決断!骨髄バンク移植第一号」	「田老の生徒が伝えたもの」	「くちびるに歌をもて」

障害者理解

<都立中野特別支援学校との連携による取組事例>

1.心のバリアフリー教室(1年生対象) 都立中野特別支援学校コーディネーターによる講演会を実施

例年 体育館実施

コロナ禍

講師の先生にご来校いただいたの、各教室へのオンライン配信



2.運動会予行練習への見学と交流会(「南中ボランティア」・1年生対象) 中学部1年生との交流

例年 特別支援学校から生徒が来校しての、競技の見学と応援、全校生徒への手作り応援メッセージ贈呈式

コロナ禍 生徒の健康管理の観点から直接の来校ではなく、メッセージ動画撮影・プレゼントでの交流



3.文化発表会リハーサル見学(2年生対象)

例年 中学部2年生が来校し、体育館にて本校2年生の合唱リハーサル見学と交流会に参加

コロナ禍 令和2年度は中止、令和3年度はオンラインでの交流を実施



4.卒業前交流会(3年生対象) ☆中学校3年間の交流の総まとめ

例年 生徒主体による企画(代表生徒による特別支援学校訪問、企画内容の相談、プログラム編成)

コロナ禍 令和2年度:映像による交流(DVD作成、交換、相互で鑑賞後、メッセージ交換)



5.「ボランティアマインドの醸成(障害者理解)」をテーマに主題を設定し、道徳科の授業を実施

	1学年	2学年	3学年
主な活動	・「南中ボランティア」活動 ・都立中野特別支援学校との交流(運動会)	・「南中ボランティア」活動 ・都立中野特別支援学校との交流(文化発表会)	・都立中野特別支援学校との交流(卒業前交流) ・これからの社会貢献
特別の教科 道徳	「思いやりの日々」	「注文をまちがえる料理店」	「たとえばくに明日はなくても」

オリンピック・パラリンピック

1. これまでの流れ



あすチャレ！スクール
2018年実施
ゴールボール選手
高田明枝さんを迎えて



夢★未来プロジェクト
YOKOSO プログラム
アトランタ五輪バスケットボール
原田裕花さんを迎えて



オリパラ講演会
本校前身・中野区立第一中学校卒業生
リオパラリンピック陸上競技日本代表
大西瞳さんを迎えて

2. コロナ禍でのオリ・パラ教育

令和3年度 義肢装具士講演会 1・2年生縦割りクラスでのローテーション



義肢装具士による講演



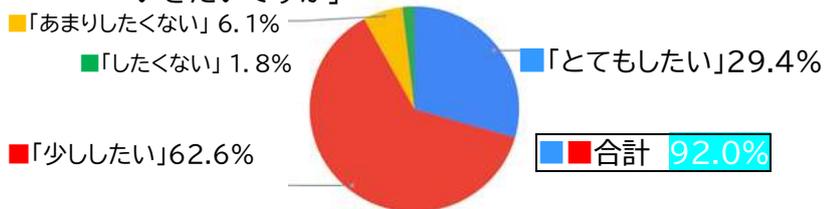
義肢装具閲覧



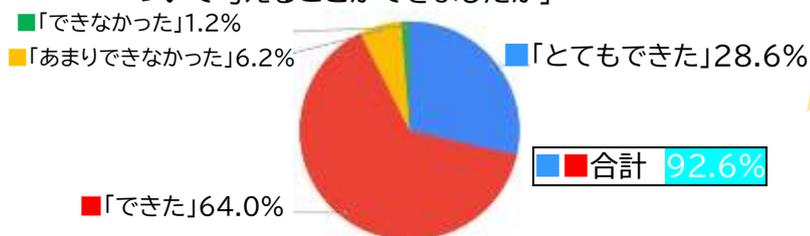
義足ユーザーによる講演と実演

義肢装具士講演前アンケートと講演後アンケートから

【講演前】「自分も社会の一員として、できることがあれば行動していきたいですか」



【講演後】「今回の講演会を通して、人を支え、社会を支えることについて考えることができましたか」



◎参加生徒(1,2年生)からの感想コメント

- ・バリアフリーデザインやユニバーサルデザインをもっと多くしていきたい
- ・困っている人がいたら積極的に助けたい
- ・協力しあって差別がない社会にしていきたい
- ・地域のボランティア活動などに参加したい
- ・人のために何かをしたい、役に立ちたい
- ・皆が平等に接して物事が進められる世の中になりたい
- ・少しでも近くで支えられるようになりたい

3.「ボランティアマインドの醸成(オリンピック・パラリンピック)」をテーマに主題を設定し、道徳科の授業を実施

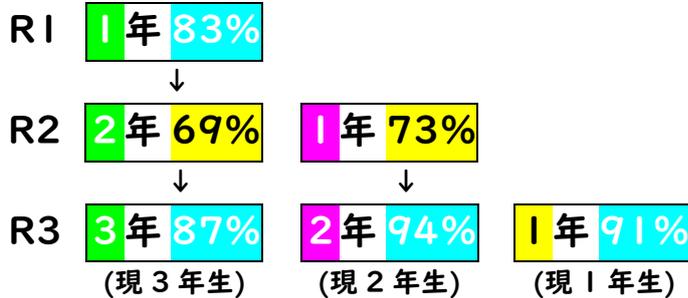
	1学年	2学年	3学年
主な活動	・「南中ボランティア」活動 ・オリパラ講演会 ・義肢装具士講演会	・「南中ボランティア」活動 ・オリパラ講演会 ・義肢装具士講演会	・「南中ボランティア」活動 ・オリパラ講演会 ・これからの社会貢献
特別の教科道徳	「風を感じてー村上清加のチャレンジ」	「今度は私の番だ」	「ライバルどうしの友情ースピードスケート小平奈緒と李相花」

研究の成果と課題

南中生の現状

○自己有用感に裏付けられた自己肯定感の醸成に関連して
「目標をもって学校生活を送っている」

<学校評価生徒アンケート>



今後の継続を要するアンケート回答状況

○人が困っているときは、すすんで助けていますか

<5/27 全国学力・学習状況調査生徒質問紙> R3 3年 89.4%

<10/22 学校評価生徒アンケート>

R3 1年 96.6% 2年 94.3% 3年 95.9%

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか

<5/27 全国学力・学習状況調査生徒質問紙> R3 3年 93.2%

<10/22 学校評価生徒アンケート>

R3 1年 98.6% 2年 98.6% 3年 97.9%

◎教職員・地域の変容◎

コロナ禍前

本校は「地域の学校」として、近隣小学校(南台小・みなみの小)や中野特別支援学校との連携・交流、区防災課・消防署・地域各町会等の関係諸機関からの協力のもと、災害時の避難所としての機能を活用した全校防災訓練を積極的に実施してきた。また、東京2020大会へ向けてのオリンピック・パラリンピック教育の一環としてアスリート招致、義肢装具体験なども積極的に実施してきた。これらの活動を通して、未来の地域を支える一員としての意識づけの教育を発展させるべく、諸機関や町会とより一層の連携を堅持してきた。

コロナ禍にあって

教育活動に多くの制約がかかり、予定していた活動の中止が重なる中、実行する意義や方法について関係団体と話し合い、縮小して実施する機会を得ることができた。(分科会ページ参照)

また、本研究で立ち上げた4分科会で、道徳授業への関連付けについて考え、教材に紐づける機会をもつことができた。

◎生徒の変容◎

コロナ禍前の南中

小中連携行事や中野特別支援学校との交流、地域交流の機会の促進を図り、「南中ボランティア」を立ち上げて、地域と生徒の結びつきを強めるための活動を行ってきた。年を追うごとに小学校、児童館、地域自治会等からのボランティア企画が積極的に持ち込まれ、生徒の活発な参加が多く見受けられた。時には募集人員を大きく上回る生徒が集まり、やむなく人数調整をするほどであった。

コロナ禍にあって

令和2年3月に始まった休校以降、社会の中での厳しい制約の下、教育活動も大きな影響を受けた。

「南中ボランティア」のほとんどは校外活動であったため、行事の中止が相次いだ。企画だけで実施に至らないものもあったが、募集をかければ集まる生徒たちの姿にボランティアの灯は消えていないことを確認することができた。また、地区祭りのように開催にこぎつけた行事もあり、制約の中でも生き生きと活動する生徒たちの姿があった。

感染症対策の観点から、交流行事でのビデオメッセージ作成やプログラムの縮小、オンラインの活用、校内ボランティアなど、実施方法の変更を余儀なくされたが、できる範囲での活動を実施し、生徒の活動の機会をつなぎ続けた結果、緊急事態宣言解除後の南台小運動会ボランティア募集には、定員に対して2倍近い生徒が集まり、「人の役に立ちたい」という思いをすぐに発揮する生徒の存在を確認した。

左記のアンケートの回答状況はコロナ禍の影響を大きく受けているが、最新の数値では、緊急事態宣言下でも実施可能な活動を工夫して継続することで、生徒がボランティアマインドを保つとともに、今後の活動の継続によって、地域を支える一員としての自己有用感・自己肯定感を得る機会をより多く作り続けることの重要性を確認することができた。

今後の課題と展望

制約の多い中であっても、小中連携・特別支援学校との交流、地域各町会・児童館・区民活動センターとのやりとりを通して、可能な活動の模索や実行に協力をいただく機会を得るとともに、一層の連携を図ることが肝要であると確認できた。生徒の自己有用感の堅持・持続とともに、自己肯定感の更なる向上を図り、未来の地域を支える一員としてのボランティアマインド醸成の本格的再開に向け、引き続き地域・諸機関との連携を継続し、活動内容を精査して再開に備えていきたい。

【FOR2050】状況が改善される明日を信じ、子どもたちが未来の地域を支える一員となり、持続可能な社会の創り手となるよう、一人ひとりの生徒のボランティアマインドの醸成のための活動を今後も継続・発展させていく。

南中公式キャラクター ナンチュウくんについて



ナンチュウくん [2013年誕生]

開校以来、教職員が作成した「南中魂」ポロシャツのバリエーションとして美術科教員が作成したキャラクター。「南チュウ魂」からネズミとした。ヒゲ+鼻+ひげで「ミ・ナ・ミ」と読める。南中ボランティアTシャツのシンボルマークにも採用されている。



おわりに

副校長 内田 善人

これまで本校が「地域の学校」として企画し、取り組んできた諸活動(「南中ボランティア」、心のバリアフリーワークショップ、中野特別支援学校との交流、全校防災訓練、義肢装具士体験講話、アスリート講演会)を意義あるものとして持続、発展していくために本研究を進めてきました。研究のスタートから想定外のコロナ禍により様々な制約のある中で、多方面からのご指導やご協力によって、ここに2年間の成果及び課題としてまとめることができました。

あわせて、当日公開の「特別の教科 道徳」の授業では、ボランティアマインドを主題とする教材を、本校が力を入れてきた道徳教育における「南中スタンダード」に基づいて見ていただけたことは、歴代の教職員がこれまで積み重ねてきたことを振り返るよい機会となりました。

【FOR2050】30年後の未来に向けて、地域を支える一員となり、持続可能な社会の創り手となる子どもたちを育む学校づくりを推進すべく、更に研究を重ね進めてまいります。今後もより多くの皆様からご指導をいただくと幸いです。

ご指導ご協力をいただいた講師の先生方、地域の皆様、関係諸機関の皆様に、心から感謝いたします。

今回の研究対象行事等にご協力いただいた団体・講師の皆様[順不同]

- [公共機関]** 中野区立南台小学校 中野区立みなみの小学校 東京都立中野特別支援学校
みなみ児童館 南中野児童館 南中野地域活動センター
中野区役所防災危機管理課 中野消防署 中野区教育委員会 東京都教育委員会
- [地域団体]** 南中野地区町会連合会(多田町会 八島自治会 弥生町三丁目町会 弥生町五丁目町会
南台二丁目原町会 弥生六南台町会 新山通町会 栄町通二丁目町会 南台五丁目町会
神明本三町会 南台四丁目西町会 南台四丁目東町会 栄一町会)
青少年育成南中野地区委員会 中野区赤十字奉仕団南中野分団
南中野ボランティアコーナー 保護司会南中野分区分
- [個人・他団体]** 帝京平成大学准教授 田中 雅子 様 (元・都立中野特別支援学校 特別支援教育コーディネーター)
都立中野特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 長沼 潤子 様
公益社団法人 日本義肢装具士協会 及び 義肢ユーザーの皆様
夢★未来プロジェクト あすチャレ!スクール スタッフの皆様
リオパラリンピック陸上競技日本代表 大西 瞳 様
東京都教育庁指導部指導企画課(オリンピック・パラリンピック教育担当) 指導主事 中村 伸也 様

研究に携わった本校教職員		校長 竹之内 勝	副校長 内田 善人	◎…研究主任
1年 主任教諭 勝田 光希 中西 啓太 教諭 瓦井 秀行 目黒 里美 齋藤 吉伸 養護教諭 谷 麻奈美 和田 桂子 特別支援教室専門員 田中久美子	2年◎主任教諭 中山布三子 主任教諭 室伏 瞳 若木 洋 教諭 小倉 学 安川 美沙 八木澤 純 学習支援員 犬丸みずほ	3年 主任教諭 小川 美治 松尾 美恵 教諭 安田 浩三 市野 剛己 高田明日香 日野 絹子 加藤 正朗 学校支援員 大小島道子	講師 浦野 貴子 小池 進一 梅山由記江 森 匠子 近藤 誠子 学校図書館指導員 宇佐美律子 スクールサポートスタッフ 稲尾 美樹	事務職員 井上 真一 学務担当主査 鈴木 一史 栄養士 高橋 遥香 スクールカウンセラー 上杉健太郎 区相談員 加曾利優子 心の教室相談員 松下 美鶴 部活動指導員 児玉 武志
<令和2年度>		校長 池田 浩二	副校長 横枕 耕史	
梅本 成利 眞屋 辰彦 和田祐里子		桑江 貞信	平 瑠美	石井 園子 鈴木 正明 上田 仁